Ⅳ－２ 調査による実態の把握

（１）岡山大学の男女共同参画に関するアンケート調査

１）調査の概要

①調査の目的

本調査は，平成 21 年度文部科学省科学技術振興調整費女性研究者支援モデル育成「学都・岡大発　女性研究者が育つ進化プラン」（以下，「進化プラン」とする）の活動の一環として，本学の女性研究者のみならず，すべての教職員・学生が，性別にかかわりなくその能力を十分に活かし，充実した職務・研究を遂行できるような環境を整える上で必要な取り組みを明らかにすることを目的として実施した。

②調査の組織

本調査は，岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室の室員のうち，以下の 3 名によるワーキンググループが中心となって調査票を作成した。

氏　　名	所　　属	職名
中谷　文美　（責任者）	大学院社会文化科学研究科	教授
五福　明夫	大学院自然科学研究科	教授
片岡　仁美	大学院医歯薬学総合研究科	教授

調査票の印刷，データ入力，集計・グラフ出力作業は（株）広和印刷に委託して行った。集計結果の分析は上記 3 名が行ったほか，自由記述の分析は保坂雅子特任助教（男女共同参画室），グラフ加工作業は門脇孝弘技術職員（男女共同参画室）が担当した。

③調査の対象

①に掲げた目的を果たすため，平成 21 年 10 月現在本学に在籍する全教職員・大学院生を対象とした。具体的には，常勤の全教職員，半年以上継続して勤務する全非常勤職員（いずれも岡山大学病院勤務者を含む），大学院生・研究生・ポスドク（いずれも留学生を含む）に対し，全数調査を行った。その際，それぞれの属性に応じた質問内容を用意するため，教員用，大学院生用，職員用の 3 種類の調査票を用いた。

それぞれの調査票の配布数は，教員分 1,893，大学院生分 2,939，職員分 2,373 である。

④調査の方法・実施時期

各学部の庶務係，大学院係等ならびに指導教員の協力を得て，属性別の 3 種類の調査票を配布した。調査票は返信用封筒に入れ，各部局に設けた回収箱および学内便によって回収した。

調査票の配布は平成 21 年 10 月末から開始し，年齢などについては平成 21 年 11 月 1 日現在の実状について回答を依頼した。回答の提出期限は同年 11 月 18 日までとしたが，11

月末までの到着分を集計の対象としている。

⑤調査項目

調査項目は，先行調査としてすでに結果が公表されている京都大学（「京都大学男女共同参画推進に関する意識・実態調査」），早稲田大学（「研究者養成のための男女平等プランに関する調査（1）～（5）」などのほか，「岡山大学生のジェンダー意識に関する調査」をはじめ学内で実施済みの同種のアンケート調査の内容も参照し，ワーキンググループおよび男女共同参画室会議での議論を踏まえて決定した。主な項目は以下の通りである。

（A）仕事・職場環境について［教員・職員対象］
　週平均勤務時間，プラス３時間の使い方，職務上の処遇の男女差
（B）仕事・研究と生活の両立支援について［教員・職員・大学院生対象］
　有効な支援策，個人的ニーズの有無，必要とする支援
（C）キャリア形成について［大学院生・職員対象］
　進学希望，昇任希望の有無
（D）男女共同参画の現状と意識について［教員・大学院生・職員対象］
　男女比率の偏りの背景要因，性別役割分業意識，女性研究者支援事業の必要性，男女共同参画への取り組みの必要性，男女共同参画室の認知度

２）実施結果および結果の公表について

①調査票の配布・回収状況

職員，教員，大学院生を対象とする 3 種類の調査票の配布数，回収数の部局別集計は次の表の通りである。回収率はそれぞれ，職員が 66.7%，教員が 42.4%，大学院生が 38.4%であった。

部局別配布・回収状況一覧

	所　属	配布数	回収数	回収率（%）
教　員	教育学研究科	123	57	46.3
	社会文化科学研究科	144	48	33.3
	自然科学研究科	330	197	59.7
	保健学研究科	66	30	45.5
	環境学研究科	70	32	45.7
	法務研究科	20	5	25.0
	医歯薬学総合研究科	293	218	74.4
	大学病院	606	114	18.8

	全学センター・その他	241	67	27.8
		（所属未回答）	34	
	合　計	**1,893**	**802**	**42.4**
大学院生	教育学研究科	191	70	36.6
	社会文化科学研究科	263	86	32.7
	自然科学研究科	1,199	506	42.2
	保健学研究科	116	47	40.5
	環境学研究科	250	124	49.6
	医歯薬学総合研究科	764	207	27.1
	法務研究科	156	81	51.9
		（所属未回答）	8	
	合　計	**2,939**	**1,129**	**38.4**
職　員	**合　計**	**2,373**	**1,582**	**66.7**

②単純集計及びクロス集計に基づいた分析

質問票の設問ごとの回答の単純集計結果は男女共同参画室のホームページに掲載している。（URL：http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/annketo.html）

より詳しい分析結果については，『「学都 岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」事業成果中間報告書【別冊】』を参照頂きたい（平成 23 年 4 月 ホームページ掲載予定）。

Ⅳ－２（２）岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査

① 趣旨

事業 2 年目にあたり本格的に女性研究者支援を実施する上で必要となる情報を収集するため，主として個人の研究活動向上のために行う支援とメンター事業のニーズを把握することを目的として実施した。

② 内容

ニーズ調査は，平成 22 年 7 月 1 日時点で在籍する 213 名の全ての常勤女性教員（以下，女性教員）を対象に平成 22 年 8 月 24 日～9 月 7 日の約 2 週間にかけて実施した。メールにより調査の案内をし，Web 上で実施した。53 名より回答があり，回答率は 24.8%であった。その後データの入力及び分析を行い，「岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査結果報告（平成 22 年 9 月 24 日）」を Web 上で公開した。

③ 主な調査結果

ここでは，男女共同参画室のホームページ上でも報告した主な調査結果を報告する。詳しい結果については，「岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査結果報告（平成 22 年 9 月 24 日）」（pp.91-96）を参照のこと。

１．研究活動向上のための支援について

・約 9 割の女性教員は「国際学会参加のための補助経費」，「国内学会参加のための補助経費」，「投稿論文英文校閲のための補助経費」といった研究スキルアップ支援が大学にあった場合には利用したいと考えています（問 1）。

・女性教員の半数近くが「研究マネジメント」及び「研究資金獲得」に関するセミナーに参加したいと考えています（問 2）。

・女性教員の 7 割程度が，「本学が購入している電子ジャーナルへの学外からのアクセス」が可能になれば女性教員の研究活動がより活発になると考えています（問 3）。

２．メンター事業のニーズについて

・「研究」，「教育」，「サービス（委員会・地域活動）」，「教員間の人間関係」，「学生との人間関係」，「仕事と私生活の両立」の 6 項目のうち，「研究」については 9 割以上，「教育」に関しては 8 割以上の女性教員が誰かに「よく」あるいは「たまに」相談しています。（問 4）

・上記の 6 項目について相談する場合，女性教員は通常「大学の同僚（男女を問わず）」に相談していますが，「仕事と私生活の両立」に関しては，「大学の女性の同僚」に限って相談する人が多いようです（問 5）。

３．女性研究者支援の対象について

・7 割近くの女性教員が「非常勤研究員」及び「医員」を女性研究者支援の対象に含めた方がよいと考えています（問 6）。

４．回答者の特徴（多い順に）

【専門分野】

生命科学系（医・歯・薬・保健等）(55%)

自然科学系（理・工・農・環境等）(25%)

人文社会科学系(20%)

【職位】

助教(65%)

准教授（17%）

教授（12%）

講師（6%）

【年代】

30 代(57%)

40 代（21%）

20 代（10%）

60 代（7%）

50 代（5%）

岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査　調査用紙（Web 版）（1/2pg）

岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査

このニーズ調査は、昨年秋に実施した「岡山大学男女共同参画推進に関するアンケート調査」を踏まえて常勤の女性教員の皆様を対象に行うものです。今後の岡山大学における女性研究者支援を進めていく上で参考にさせていただきます。ご多用中誠に恐縮ですが、9月7日（火）までにご回答していただきますようお願いいたします。

問1．あなたは、以下のような研究スキルアップ支援が岡山大学にあった場合、利用しますか？
利用する＝1、どちらとも言えない＝2、利用しない＝3でお答えください。

国際学会参加のための補助経費	○1	○2	○3
国内学会参加のための補助経費	○1	○2	○3
投稿論文英文校閲のための補助経費	○1	○2	○3

その他にあった方がよいと考える研究スキルアップ支援があればお書きください。

問2．あなたは、以下のようなことについて学ぶ機会があった場合、参加しますか？
参加する＝1、どちらとも言えない＝2、参加しない＝3でお答えください。

研究資金獲得	○1	○2	○3
タイムマネジメント	○1	○2	○3
キャリアプランニング	○1	○2	○3
ストレスマネジメント	○1	○2	○3
研究マネジメント	○1	○2	○3

その他に研究生活に関して学んでみたいと思われることがあればお書きください。

問3．あなたは、以下のような制度が岡山大学にあった場合、女性教員の研究活動がより活発になると思いますか？
思う＝1、どちらとも言えない＝2、思わない＝3でお答えください。

優秀な研究業績を挙げた女性研究者を表彰する制度（奨励賞など）	○1	○2	○3
出産・育児期にある女性研究者を対象とした研究費の支給	○1	○2	○3
本学が購入している電子ジャーナルへの学外からのアクセス	○1	○2	○3
優秀な教員から指導・助言を受けるメンタリング制度	○1	○2	○3

その他に研究活動を活発にする効果があると思われることがあればお書きください。

岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査　調査用紙（Web 版）（2/2pg）

問4．あなたは、以下のことについて誰かに相談をすることがありますか？
よくある＝1、たまにある＝2、めったにない＝3でお答えください。

研究	○1	○2	○3
教育	○1	○2	○3
サービス（委員会・地域活動）	○1	○2	○3
教員間の人間関係	○1	○2	○3
学生との人間関係	○1	○2	○3
仕事と私生活の両立	○1	○2	○3

問5．あなたは、以下のことについて相談する場合、誰に相談しますか？
大学の同僚（男性・女性）＝1、大学の同僚（女性のみ）＝2、学外の研究者＝3、
その他＝4（具体的には）でお答えください。

研究	○1	○2	○3	その他
教育	○1	○2	○3	その他
サービス（委員会・地域活動）	○1	○2	○3	その他
教員間の人間関係	○1	○2	○3	その他
学生との人間関係	○1	○2	○3	その他
仕事と私生活の両立	○1	○2	○3	その他

問6．本学における女性研究者支援の対象について、以下の人達を含めることについてどう考えますか？
含めた方がよい＝1、どちらとも言えない＝2、含めない方がよい＝3でお答えください。

非常勤研究員	○1	○2	○3
医員	○1	○2	○3
大学院生（博士前期課程）	○1	○2	○3
大学院生（博士後期課程）	○1	○2	○3

その他、含めた方がよいと考える人達がいればお答えください。

問7．最後に、あなた自身についてお尋ねします。

専門分野

- ○人文社会科学系
- ○自然科学系（理・工・農・環境等）
- ○生命科学系（医・歯・薬・保健等）
- ○その他

職位

- ○教授
- ○准教授
- ○講師
- ○助教
- ○助手

年代（平成22年8月1日現在）

- ○20代
- ○30代
- ○40代
- ○50代
- ○60代

岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査結果報告（平成 22 年 9 月 24 日）

1. 調査について

「岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査」は、科学技術振興調整費女性研究者支援モデル育成事業「学部・岡大塾 女性研究者が育つ進化プラン」の実施２年目にあたり、本格的に女性研究者支援を行う上で必要となる情報を収集するため、主として個人の研究活動向上のために行う支援とメンター事業のニーズを把握することを目的として実施した。実施にあたっては、平成21年秋に実施した「岡山大学男女共同参画推進に関するアンケート調査」の結果を参考にした。

調査準備	平成 22 年 7 月～8 月
調査期間	平成 22 年 8 月 24 日～9 月 7 日（約 2 週間）
調査手段	メールにより案内し Web 上で実施
調査対象	常勤の女性教員全員（平成 22 年 7 月 1 日時点で在籍する 213 名）
回収率	24.8%（53 名）
データ入力及び分析	平成 22 年 9 月

岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査結果報告（平成 22 年 9 月 24 日）

「岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査」結果報告

（平成22年9月24日）

目次

1．　調査について　2

2．　調査結果　3

A　研究活動向上のための支援について　3

B　メンター事業について　5

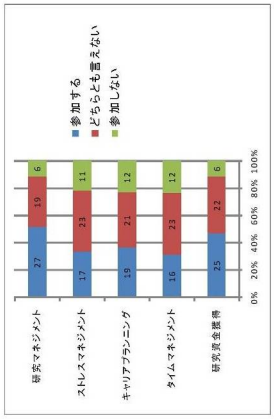
C　女性研究者支援の対象について　7

D　回答者の属性　8

E　自由記述の回答　9

岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査結果報告（平成 22 年 9 月 24 日）

問 2.　あなたは、以下のようなことについて学ぶ機会があった場合、参加しますか？



問 3 では、女性研究者支援を積極的に行っている大学で最近行われている 4 つの新しい制度について本学の女性教員の意見を尋ねた。「あなたは、以下のような制度が岡山大学にあった場合、女性教員の研究活動がより活発になると思いますか？」という問いに対し、最も積極的な意見が多かったのは「本学が購入している電子ジャーナルへの学外からのアクセス」で、7 割程度の回答者が肯定的な意見を示した。一方、「優秀な教員から指導・助言を受けるメンタリング制度」は「どちらとも言えない」という曖昧な態度を示す回答が約半数に達した。

このように新しい制度に対する回答者の反応が制度により大きく異なっているのは、制度の浸透度合いを反映して教員の間での制度に関する知識が異なるからであるといえそうだ。電子ジャーナルは既に多くの教員が利用しているため、学外でも利用できるようになることで利便性が高まると考える者が多いのではないかと考えられる。逆にメンタリング制度は、「メンタリング」という用語自体がまだ一般的でないこともあって、積極的に考える回答者が少なかったのではないかと推測される。

なお、調査終了直後の 9 月中旬には一部電子ジャーナルの学外での利用が可能となった。男女共同参画室では、現在メンター事業を女性研究者のための研究サポートの一環として整備しており、メンター養成研修やメンタリングに関するセミナーを実施中である。今後、メンタリングへの理解と需要が高まっていくことが期待される。

岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査結果報告（平成 22 年 9 月 24 日）

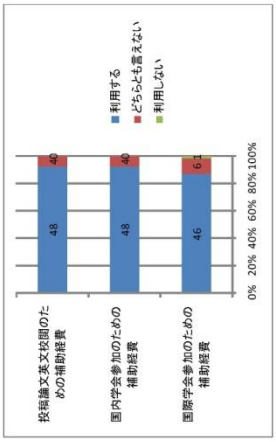
2. 調査結果

A 研究活動向上のための支援について

問 1 から問 3 では研究活動向上のための支援について尋ねた。

問 1 の「あなたは、以下のような研究スキルアップ支援が岡山大学にあった場合、利用しますか？」という質問では、「国際学会参加のための補助経費」、「国内学会参加のための補助経費」、「投稿論文英文校閲のための補助経費」の 3 つの支援それぞれに関して 9 割近くの回答者が「利用する」と回答し、個人の研究活動を直接的にサポートするタイプの支援が普遍的に求められていることが窺われた。

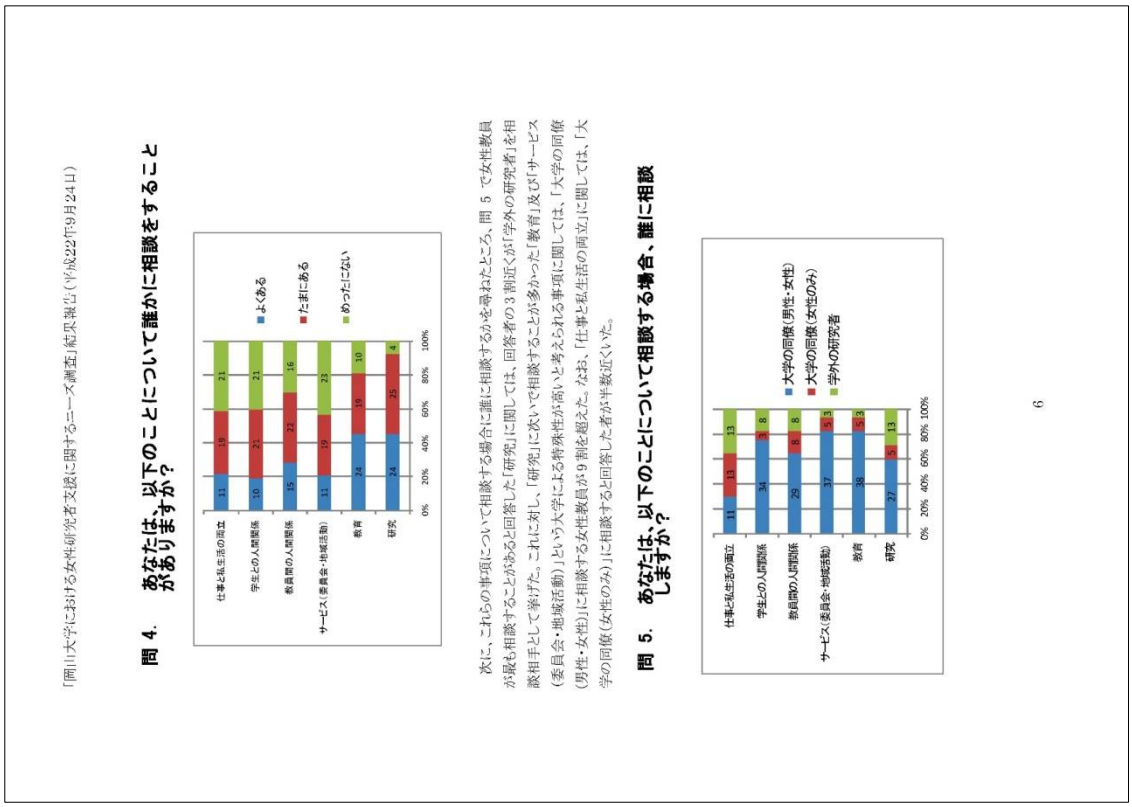
問1.　あなたは、以下のような研究スキルアップ支援が岡山大学にあった場合、利用しますか？



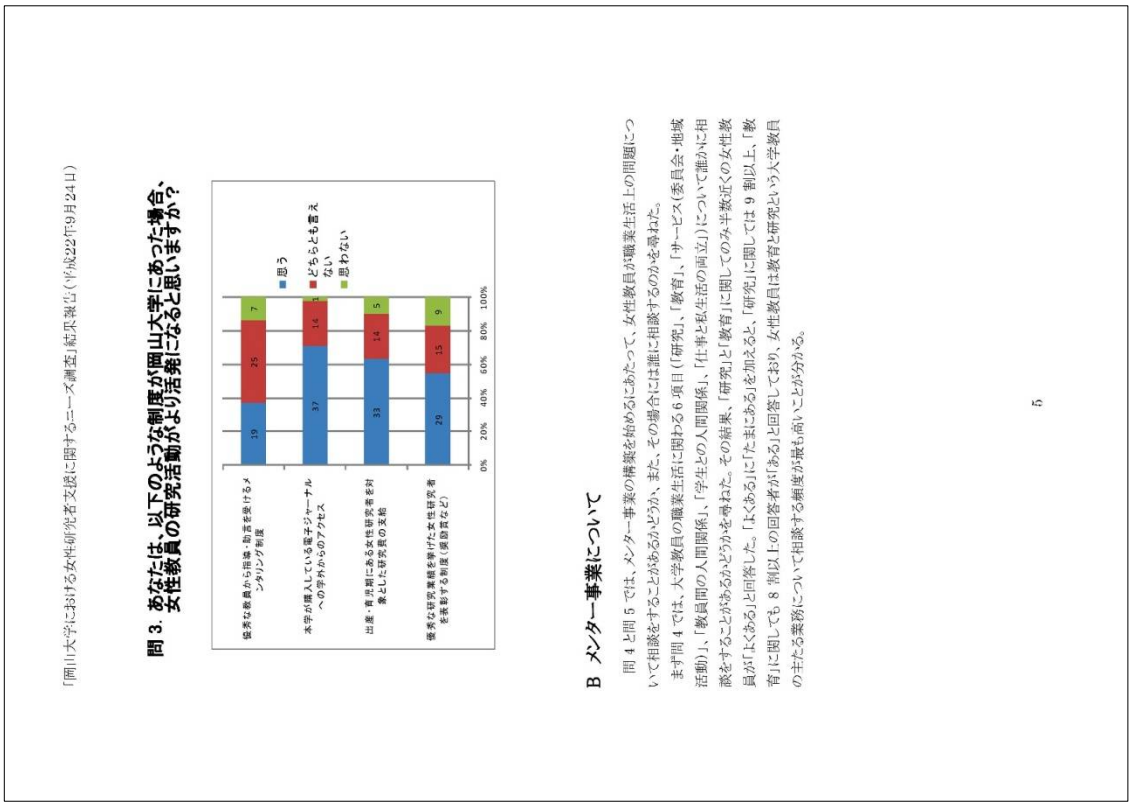
問 2 では、「研究資金獲得」、「タイムマネジメント」、「キャリアプランニング」、「ストレスマネジメント」、「研究マネジメント」という、一般に女性研究者のエンカレッジメント・セミナーとして開催されている 5 つのトピックについて参加の関心を尋ねた。全体として、回答者は「参加する」という参加に積極的な者と「どちらとも言えない」という態度をあきらかにしない者とに 2 分した。その中で、「研究マネジメント」と「研究資金獲得」に関しては半数近くの回答者が参加希望を示しており、研究者としての生活を送る上で役に立つとされる一般的なスキルより、直接的に研究活動に関わるスキルを身につける機会への関心の高さが窺われた。

本学では、既に研究資金獲得セミナーを実施済み（平成 22 年 9 月 16 日）であるが、今後も予算が許す限りこのようなセミナーを実施していく必要があると考えられる。

岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査結果報告（平成 22 年 9 月 24 日）



岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査結果報告（平成 22 年 9 月 24 日）

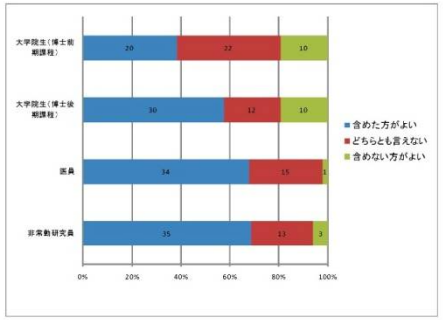


このことから、「仕事と私生活の両立」に関しては女性として家庭責任という課題を共有しているために女性教員が主たる相談相手になっているものの、それ以外の大学教員としての職業生活に関する事項に関しては大学の同僚が男女を問わずに相談相手となっている様子が窺われる。

C 女性研究者支援の対象について

最後に、多くの女性教員にとっては唐突な質問であったかもしれないが、「女性研究者支援の対象について、以下の人達を含めることについてどう考えますか？」という質問を問 6 で行った。この質問は、本学における女性研究者支援を有効に進めていくにあたって、女性研究者支援の現在の主たる受益者である常勤の女性教員が、その他の女性の大学構成員に対してどのような同僚意識を持っているかを把握するために行った。

問 6. 女性研究者支援の対象について、以下の人達を含めることについてどう考えますか？



予測されたことではあったが、博士号保持者であることが多い「非常勤研究員」及び「医員」として大学で雇用されているグループについては、7 割近くの回答者が「含めた方がよい」と回答した。逆に、「含めない方がよい」と考えている回答者は極 1 部にとどまった。

E 自由記述の回答

自由記述の回答については、回答数が少なかったため、分析は行わず、回答をそのまま紹介するにとどめる。

問1「その他にあった方がよいと考える研究スキルアップ支援があればお書き下さい。」

・女性研究者支援といって女性ひとくくりに優遇される措置は不自然に感じる。女性が研究を続けられるような環境整備はむしろ多くの PI（男性）が意識すべき問題が多く含まれると感じる。たとえば、公的会議や説明会、セミナーなどが 18 時以降に開催される例など。保育園や学童保育の充実などはやられているようだが、車での通勤を保育を主に担当する女性研究者には認めるとか、具体的な優遇措置が望まれる（家事全般を主に担当する女性は幼児だけでない。現在高校生の子供がいるが、時間に追われる生活は以前と何も変わっていない
・研究をするうえで国内・海外出張をする間の子供のベビーシッター費用を補助するようなものがあればよいと思う。
・学会に限らず、シンポジウム等にも幅を広げていただければと思います。
・文献を集めたり、コピーをとったり、多くの資料のファイリングと、ちょっとした出費が重なってつらい。一回が少額で、研究室に申請するほどでもないかと、なってしまう 年間少額でいいので個人で使える研究費または事務費がほしい。

問 2「その他に研究生活に関して学んでみたいと思われることがあればお書きください。」

・英会話トレーニング（ただ漠然と意思を伝えるだけでなく、討論に対応しうるだけの英会話力を身につけたいです。）
・リーダーシップ
・この手の内容については、男女の差はあまり感じられない。むしろ個人的な問題なので、男女問わず希望者があれば充実させればよいのではないか
・今回の研究支援員事業もありがたい制度だとは思うが、期間も短く雑務が増えることを考えるとあまり有効とは思えない。本当にサポートすべき女性研究者（ポテンシャルプラス養育環境をふまえて）を数年援助する形にするか、あるいはある程度自由に使える研究費として配分するのがよいのではないか？
・海外留学に関するハウツー
・出産、育児期の研究と家庭（特に育児）の両立の仕方
・なし
・質問とは異なりますが、、、学ぶ機会があっても、時間がとれない。育児との兼ね合いで、時間外

E 自由記述の回答

自由記述の回答については、回答数が少なかったため、分析は行わず、回答をそのまま紹介するにとどめる。

問1「その他にあった方がよいと考える研究スキルアップ支援があればお書き下さい。」

・女性研究者支援といって女性ひとくくりに優遇される措置は不自然に感じる。女性が研究を続けられるような環境整備はむしろ多くのPI（男性）が意識すべき問題が多く含まれると感じる。たとえば、公的会議や説明会、セミナーなどが 18 時以降に開催される例など。保育園や学童保育の充実などはやられているようだが、車での通勤を保育を主に担当する女性研究者には認めるとか、具体的な優遇措置が望まれる（家事全般を主に担当する女性は幼児だけでない。現在高校生の子供がいるが、時間に追われる生活は以前と何も変わっていない
・研究をするうえで国内・海外出張をする間の子供のベビーシッター費用を補助するようなものがあればよいと思う。
・学会に限らず、シンポジウム等にも幅を広げていただければと思います。
・文献を集めたり、コピーをとったり、多くの資料のファイリングと、ちょっとした出費が重なってつらい。一回が少額で、研究室に申請するほどでもないかと、なってしまう 年間少額でいいので個人で使える研究費または事務費がほしい。

問 2「その他に研究生活に関して学んでみたいと思われることがあればお書きください。」

・英会話トレーニング（ただ漠然と意思を伝えるだけでなく、討論に対応しうるだけの英会話力を身につけたいです。）
・リーダーシップ
・この手の内容については、男女の差はあまり感じられない。むしろ個人的な問題なので、男女問わず希望者があれば充実させればよいのではないか
・今回の研究支援員事業もありがたい制度だとは思うが、期間も短く雑務が増えることを考えるとあまり有効とは思えない。本当にサポートすべき女性研究者（ポテンシャルプラス養育環境をふまえて）を数年援助する形にするか、あるいはある程度自由に使える研究費として配分するのがよいのではないか？
・海外留学に関するハウツー
・出産、育児期の研究と家庭（特に育児）の両立の仕方
・なし
・質問とは異なりますが、、、学ぶ機会があっても、時間がとれない。育児との兼ね合いで、時間外

は無理であるし、時間内は診療が入っている。お知らせが急にきても、行くことはできない。
・英会話 外国の研究者と話すとき、非常に困る
・なし

問 3「その他に研究活動を活発にする効果があると思われることがあればお書きください。」

・気楽に参加できるサロンがあるとよい。学生に対して、基本的な礼儀・作法、学問的倫理意識などを教えるために、かなりの時間を取られている。一般教養などでいっせいに教えてもらえば、研究時間が捻出できる。
・家族に介護者がいる女性研究者への非常勤研究補助員の配置、家族に介護者がいる単身赴任女性研究者への交通費支援、休暇措置
・学童などの育児支援がセットでなければ、困難だと思います。
・男性教員の実質的な理解
・男女問わず研究活動をもっと盛んにするような仕組みが必要だと思う。
・必要以上の女性優遇にならないように注意するべき
・金銭的な援助よりも、時間的な余裕と、成果主義に固執しない評価体制など、女性の子育てを支援するシステム作りと組織内の意識改革が必要だと思う。下手にお金をもらっても、消化する時間と暇がない状態であれば、自分の首を絞めるだけだと思う。
・その他の研究活動を活発にする効果があると思われること」ではありませんが、項目の3つ目の電子ジャーナルへの学外からのアクセスはすぐにでも実現してほしい内容です。産休・育休中は学内からのアクセスは不可能にも関わらず、学外アクセスを可能にするシステムが現在はありません。なんらかの早急な対応をお願いします。
・出産・育児のため、出勤できなくでも、研究が続けられる環境（立場、研究費、環境）
育児と仕事について相談できるメンターがほしい。自分の子供より、少し、年上の子供がいる人が身近にいてくれたら、と思うことが多い。自分自身も、経験を誰かに生かしてもらえたら、うれしい。
・産休を取りやすく、また戻ってきやすい制度作り、大学の付属または提携の保育施設、ベビーシッターなどの設備面の充実、結婚後（特に育児期）は結婚前とは勤務状態が当然変わるでしょうという全体への啓蒙、男性研究員や職員が育児、家事に参加しやすい制度作り
・出産・育児期にある女性研究者を対象としたサポーター制度
・「出産・育児期にある女性研究者を対象とした研究費の支給」についてですが、子育て中の女性研究者に不足しがちなのは研究費というよりも時間と体力ではないでしょうか。もちろんその費用で技術員を雇う、作業の一部を外注に出す、などして時間を買うことも可能でしょうが、それであれば「研究支援員事業」などでカバーできると思います。研究に費やす時間は少ないのに予算だけ増える、となると予算を使い切れずに無駄な買い物をして消化するという結果になりかねません。
女性研究者へのさまざまな配慮がなされることは大変心強く思いますが、男性研究者の中には「逆差別ではないか」という意見をお持ちの方がおられることも感じております。女性研究者支援は常

岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査結果報告（平成 22 年 9 月 24 日）

に適切で有意義なものでなければ、実際的に支援が意味をなさないばかりか、上記のような意見をお持ちの男性研究者からの反発を招くことになりかねません。
その意味ではこのようなアンケートなどで研究者自身の意見が反映されていくのは非常によい取り組みだと思います。今後とも定期的にこういった機会を設けていただきたいと願っております。

問６「その他、含めた方がよいと考える人達がいればお答えください。」

・院生を含める場合には、男性も含めたほうがいいと考えます。
・大学院が終了後にも研究をする人に対しては支援が必要。大学院では男女は関係ないと思う
・支援の対象の範囲は広くしておき、審査で適するかどうかと判断すべき。ただし、支援内容をもっと自由度の高いものにして本人の最も必要とするものに充てることができるようにしたほうがよいと思う。
・後期研修医、研究生
・プロジェクトで雇用されているポストについても考慮されてよいのでは（非常勤研究員がこれに該当するのでなければ）。それぞれについて、各雇用形態にあわせた支援（雇用形態によって異なる支援内容）が検討されてもよい（るべき？）ではないかと思います
・学生であっても、将来受けられる支援を知る方法があってもよい。その意味において、学生も含めた方が良い。
・技術職員

Ⅳ－２（３）
岡山大学における理系女子大学院生の研究生活の実態及びニーズに関する調査

① 趣旨

次世代の女性研究者候補である大学院生を対象に，女性研究者の研究生活がどのようなものであるか，またどのようなニーズを持っているのかを把握することを目的として，グループインタビューにより行った。実施にあたっては，自然科学系の学生のみを対象とした。

② 実施内容

時期： 平成 22 年 11 月 24 日～26 日

対象： 自然科学研究科（理・工・農）および環境学研究科に所属する女子大学院生（津島地区）

実施方法：対象となる院生に対して G-mail により調査協力を依頼した。複数回にわたる依頼と教員の協力を得て，留学生 1 名を含む合計 20 名の院生が参加した。インタビューは当初の実施予定日（11 月 15 日～19 日）をずらして実施した。

参加者の都合に合わせて 4 グループを作り，参加者 3～7 名に対し，ファシリテーター1 名というグループインタビューの形式を取って実施した。インタビューに要した時間は約 1 時間半であった。インタビューでは趣旨説明を行った後，データの利用等について参加者の同意を得，属性と進路に関する簡単なアンケートを実施した後，以下の 4 つの質問について自由に話してもらった。

質問項目：
1．女子大学院生の将来のキャリアに対する考え方に関して
2．理系における女性の少なさについて
3．女子大学院生の研究・学習生活の実態に関して
4．女子大学院生の修学環境に対する意見・要望

なお，インタビューは，参加者の同意説明文書による承諾を得て録音した。後日，録音から質問への回答に関するメモを作成し，メモをもとにインタビューから得られる回答を整理・分析した（本来ならば文書起こしをして分析すべきであるが，時間上の制約から行っていない）。

アンケートから得られた参加者の属性は以下の通り。

【所属】 自然科学研究科 18 名，環境学研究科 2 名

【専門分野】 理学 3 名，工学 10 名，農学 7 名

【学年】 博士前期課程 1 年(13 名)，博士前期課程 2 年(5 名)，
博士後期課程 1 年(1 名)，博士後期課程 2 年(1 名)

③ 調査結果

１．女子大学院生の将来のキャリアに対する考え方に関して

卒業後の進路としては，企業での研究職を目指している者が半数を占めており，大学教員を目指している者はいなかった。前期課程の学生 18 名のうち 17 名は後期課程への進学を検討していなかった。進学を検討していない理由としては１）企業で働くことの魅力，２）大学院での仕事量の多さ，３）大学の世界の狭さ，４）将来の不確実性，５）大学教員職の教育負担，および６）現在の研究室における教員および研究スタイル，という問題が挙げられた。

２．理系における女性の少なさについて

一般的に言って理系の研究分野に女性が少ない理由として，参加者は１）高校での選択科目と２）大学卒業後の職業選択を挙げた。１）については，数学・理科といった理系科目は難しいため，女性の中には苦手意識を持っているだけでなく，感覚的に嫌いだと考える者が多い。そのために進学に必要な理系科目を高校で選択する女子が少ない，２）については，大学で理系を専攻したとしても，研究職につくためには勤務地が限定されたり結婚後仕事を続けていく上での困難が予想されたりするため，理系の仕事を選ぶ女性が少ないといった意見が挙げられた。なお，自分が理系を選択していることについては，自分は好きで選んだだけであり，女性だから理系に向いていないということはないと考えている。

本学で実施している「学都・岡大発　女性研究者が育つ進化プラン」で女性に限定したテニュア・トラックのポストを設置したり「10 年後に女性研究者の比率を 20%にする」という数値目標を掲げたりして女性研究者数を増やすための取り組みを進めていることを紹介し，このような取り組みについてどのように思うか聞いたところ，肯定的な意見よりも否定的な意見の方が圧倒的に多かった。

否定的意見として最も多かったのは，女性が採用において優遇されることへの反発である。女性枠を設けていることに対して，男女を平等に扱うべき，優遇されているからこそ女性研究者のレベルが低いと疑われる，女性研究者自身女性であることで評価されても満足できない，研究の発展においてマイナスの影響があると考えていた。次に多かったのが，女性の研究者を増やすことへの疑問であり，そもそも男女を区別することの適切性に対して疑問の声が挙がった。また，支援体制を整備しても女性が研究者としてやっていく上では限界があるとの指摘もあった。

なお，肯定的意見としては１）支援体制を整備することへの賛成と２）職を探している当事者にとっての有利性が挙げられた。１）については，女性が研究を続けていく上で負担になる出産・育児を支援することそのもの，また制度があることで若者が人生設計をしやすくなるという意見があった。

このように否定的・肯定的な意見の他に大学がなすべきこととして，女性枠の設定や支援体制の整備よりも意識改革，研究職の魅力向上，企業からの引き抜きを行うこと等も提

案された。

３．女子大学院生の研究・学習生活の実態に関して

現在，どのような研究・学習生活を送っているか，また，研究・学習生活を送る上で何か問題を感じているかどうかを尋ねたところ，以下の問題が学生の回答から浮かび上がった。なお，参加者の中には全く問題点はないと考えている人も数名いた。

先ず，「研究室における拘束時間の長さ」が，拘束時間がある研究室に所属している学生のほとんどにとって大きな問題であり，研究室の方針で拘束時間が長く，休みが取れないという不満があった。逆に，研究室での拘束時間がないために不満はないという意見もあった。このことから，大学院生は拘束時間がいかにきついかということが研究・学習生活の厳しさを象徴していると考えているということが分かる。

また，長時間にわたって研究することの重要性を理解し，研究そのものは好きでやっていると認識していても，研究活動に従事するにあたり「仕事量が多い」ために研究室で長時間過ごさなければならず，自宅に帰る時間が深夜に及んでしまうことを問題であると感じている学生もいた。これは「夜間のキャンパスにおいて建物内外で安全に不安を感じる」，および「駐車場が遠い・狭い」という問題とも関係しているようであった。研究室に関連する問題としては，研究スペースの狭さ，設備の悪さ，衛生面の悪さといった「研究室の物理的環境」や「研究室の教員の態度・指導方法への不満」が挙げられた。

この他に以下の問題が挙げられた。

情報提供の不足と説明不足(例：駐車ルール変更)

就職活動への配慮の欠如(例：中間発表の時期)

サービスにおける対応の悪さ(例：ハラスメント相談)

修学環境の悪さ(例：図書館の冷房)

費用（例：学会参加費）

人間関係（例：知り合いの少なさ）

４．女子大学院生の修学環境に対する意見・要望

最後に理系の女子学生や女性研究者が増えるためにはどのような制度や設備・施設があったらよいと考えるかと尋ねたところ，１）両立のための支援体制の整備に加えて，２）女性教員の増加が挙げられた。その理由としては，女性教員が増えることによりロールモデルもできるし仕事もしやすくなるというものであった。参加者の中には，自分のロールモデルを持っている者は少なかったが，実際に大学教員を目指す場合，また大学教員として働くことを考えた場合，周りに自分と同じような女性がいた方が働きやすいと考える者がいた事は注目に値する。

大学院生へのリクルート文書

○○研究科の女子大学院生の皆さんへ

『岡山大学における理系女子大学院生の研究生活の実態
およびニーズに関する調査』について
（グループインタビューへの参加のお願い）

男女共同参画室では、11 月 15 日（月）～19 日（金）にかけて○○研究科に所属する女子大学院生（前期・後期課程。留学生を含む）の皆さんの研究生活の実態及びニーズに関する調査をグループインタビューにより行います。（詳しい情報については http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/graduate_student.html をご覧下さい。）

参加してもよいと思われる方は、氏名、研究科名、課程(前期・後期)を明記の上、11 月 10 日(水)までに sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp までメールでご連絡をお願いいたします。

このグループインタビューで得た皆さんのご意見やご提案は、整理・分析した上で、女性研究者の研究環境整備に役立てていきたいと考えております。授業や研究活動でお忙しいこととは存じますが、岡山大学の研究環境の向上に果たす意義をご理解くださり、一人でも多くの方がこの調査に参加して頂ければ幸いです。お一人での参加もお知り合いの方とのグループでの参加もどちらも歓迎します。

連絡先
岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
E-MAIL: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
TEL/FAX: 086 - 251 - 7016
担当：保坂

同意説明文書（1/2pg）

調査に参加していただく理系女子大学院生の皆さんへ

（同意説明文書）

調査の名称：岡山大学における理系女子大学院生の研究生活の実態およびニーズに関する調査
調査部署名：ダイバーシティ推進本部男女共同参画室

１．趣旨
この同意説明文書は、あなたにこの調査の内容について説明させていただくことを目的とするものです。よくお読みになり、調査にご参加いただけるかどうかご検討下さい。

２．調査の目的について
この調査は、岡山大学の理系女子大学院生の研究生活の実態およびニーズについて、グループインタビューにより明らかにすることを目的として行います。

３．調査への参加について
この調査に参加していただくためには、岡山大学の自然科学研究科もしくは環境学研究科に大学院生として所属している女性であることが必要です。

４．グループインタビューの内容について
グループインタビューは、予め決めた日に１度だけ行います。所要時間は、同意説明文書の説明を含め１時間半程度です。インタビューでは、あなたの研究生活の実態およびニーズについて質問させて頂きます。あなたのお答えに対し、さらに質問をさせて頂くこともあります。インタビューの内容は当日詳細なメモを取り、あなたに確認していただいた上で整理・分析させて頂きます。

５．調査への参加の自由と同意撤回の自由について
この調査に参加するかどうかはあなたの自由です。また、調査に参加すると表明した後でも、いつでも自由に同意を撤回することができます。

６．調査参加に伴う危険や被害について
特にこの調査への参加に伴う危険や被害はありません。ただし、質問内容によってはインタビュー中に気分を害されることがあるかもしれません。ご了承ください。

同意説明文書（2/2pg）

７．調査の利益
調査に参加するあなたに直接の利益があるわけではありませんが、あなたの協力によって遂行されるこの調査によって、岡山大学の理系女子大学院生の研究環境の現状に関する理解が深まることは利益があると考えられます。

８．プライバシーの保護について
この調査のために提供くださった情報に関しては、あなたのプライバシーを保護します。インタビューの内容は、あなたから改めて同意を得ない限り、第三者にそのままの形で公表することはありません。分析後に内容について公表する場合は、あなたのお名前またはイニシャルがわかるような形では公表しませんので、あなたのプライバシーに関わる情報は守られます。なお、他の参加者が話された内容につきましては、あなたもプライバシーの保護に協力していただきますようお願い申し上げます。

＜調査参加に関する相談窓口＞
調査参加についてご質問があれば下記までご連絡下さい。
岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
E-MAIL: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
TEL/FAX: 086 - 251 - 7016
担当：保坂

調査に参加して頂き、グループインタビューを分析の対象として利用することを了承していただける場合は、下記にサインをお願いします。

サイン　　年月日

調査者のサイン　　年月日

質問一覧

１）女子大学院生の将来のキャリアに対する考え方に関して
・あなたは，ご自分の卒業後の職業についてどのように考えていますか。
・（前期課程の学生の場合）あなたは，ご自分が後期課程に進学することについてどのように考えていますか。

２）理系における女性の少なさについて
・あなたは，一般的に言って理系に女性が少ないのはどうしてだと考えますか。
・岡山大学では「学都・岡大発　女性研究者が育つ進化プラン」の下，女性に限定したポストを設置したり，「10 年後に女性研究者の比率を 20%にする」という数値目標を掲げたりして女性研究者数を増やすための取り組みを行っています。あなたは岡山大学にこのような取り組みがあることを知っていましたか。またこのような取り組みについてどのように思いますか。

３）女子大学院生の研究・学習生活の実態に関して
・あなたは，岡山大学でどのような研究・学習生活を送っていますか。また，研究・学習生活を送る上で何か問題を感じていますか。感じているとすればそれはどのような問題ですか。研究時間や研究場所，人間関係などに関することについてお話し下さい。

４）女子大学院生の修学環境に対する意見・要望
・最後にお尋ねします。あなたは，理系の女子学生や女性研究者が増えるためにはどのような制度や設備・施設があったらよいと考えますか。あなたの現在の研究・学習環境を踏まえてお答え下さい。

Ⅳ－２（４）女性のための設備・施設の整備状況調査

①趣旨

大学の教職員や学生が安全で快適に研究や勉学，仕事に従事できるような環境を整備することは大学にとって重要である。男女共同参画室では，特に妊娠・育児期の女性に配慮した大学の教育，研究及び職場環境の整備状況について調査を行った。

②実施内容

調査対象：　津島地区の各部局

調査方法：　アンケート調査

調査時期：　平成２２年１０月～１２月

調査内容：　以下の施設・設備の整備状況について問い合わせる。

・女性用の更衣室

・女性専用休憩所（妊娠中や体調がすぐれない時の休憩・仮眠用）

・授乳や搾乳ができる個室

・ベビーシートやベビーチェアを備えたトイレや洗面所

・治安・安全等に配慮した設備・施設（照明等）

③調査結果

ロッカーや洗面所が設置された女性用の更衣室は大半の部局に備えられていた。また外灯やトイレ・廊下等にセンサーによる照明や防犯カメラを設置するなどの治安・安全等への配慮も比較的多数の部局において行われていた。

しかしながら，単なる更衣室ではなく，休憩・仮眠のために利用したり，授乳や搾乳をしたりできるようなプライバシーが守れる部屋を設置している部局は数カ所にとどまった。また，乳幼児を連れた人が利用できるベビーシートやベビーチェアを備えたトイレや洗面所を設置している部局は全くなかった。現状では，出産直後や育児期の女性への配慮は十分だとは言い難い。

今回の調査結果に基づいて女性のための施設・設備を整備するよう依頼は行っていないが，調査結果は部局にも提供していることから，大学の環境整備に責任を持つ部局長等の意識が高まることが期待される。今後も同様の調査を定期的に実施していきたい。

女性のための設備・施設の整備状況調査結果

平成22.11.30現在

施設名	女性用の更衣室				女性専用休憩所 妊娠中や体調すぐれない時の休憩・仮眠用		授乳や搾乳ができる個室		ベビーシートやベビーチェアを備えたトイレや洗面所		治安・安全等に配慮した設備・施設（照明等）	
	教職員用 現在	予定	学生用	予定	現在	予定	現在	予定	現在	予定	現在	予定
事務局本部棟	本部棟１階・２階・３階・４階		×	×	×	×	×	×	×	×	１階～４階の階段・トイレのセンサーによる照明設備	
学務部 （センター含む）	一般教育棟A棟 2階・大学会館事務室内		×	×	×	×	×	×	×	×	一般教育棟・学生会館・廊下等に防犯カメラを設置	
教育学研究科・ 教師教育開発センター	教育学部本館１階 １４０室		×	×	教育学部本館１階 １４０室		教育学部本館１階 １４０室		×	×	×	×
大学院社会文化科学研究科	文・法・経済学部 ２号館１階		×	×	×	×	×	×	×	×	文・法・経済学部 １，２号館周辺外灯	
大学院自然科学研究科（理）	×	×	×	×	理学部棟本館１階 Ｂ１２８休憩室		理学部棟本館１階 Ｂ１２８休憩室		×	×	×	×
大学院自然科学研究科（工）	工学部1号館1階Ａ 124室		×	×	1号館1階Ａ 120室を使用		×	×	×	×	×	×
大学院自然科学研究科（農）	農学部１号館１階		×	×	農学部１号館１階 救護室		農学部１号館１階 救護室		×	×	×	×
大学院環境学研究科	環境理工学部棟２階 210		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
大学院医歯薬学総合研究科（薬）	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	１階～４階の廊下・階段・トイレのセンサーによる照明設備	
情報統括センター	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
附属図書館 （中央図書館）	本館１階		×	×	休養室		休養室		×	×	防犯カメラ・本館１階カウンターの照明	

各部局への調査協力の依頼文書

平成 22 年 10 月 25 日

各部局長　殿

ダイバーシティ推進本部男女共同参画室長
沖　　陽　子

女性のための施設・設備の整備状況について（調査協力のお願い）

平素から，男女共同参画室の活動にご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。このたび，男女共同参画室では，本学における女性教職員及び学生のための施設・設備の整備状況について調査することにいたしました。今回の調査では，特に出産・育児期の女性に配慮された施設・設備の整備状況について把握したいと考えております。

つきましては，貴部局におきましてどのような職場環境及び修学環境の整備がなされているか，下記の事項に関して別紙にて 11 月 30 日（火）までにご回答いただきますようお願い申し上げます。調査結果は，男女共同参画室のホームページ上等でご報告させていただくとともに，マップ等を作成し，教職員だけでなく学会等で本学を訪問する女性にも役立つ形で提供させていただく予定です。

ご多忙の折，お手数ですが，なにとぞご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

記

施設・設備の整備状況の例
・女性用の更衣室がある。
・妊娠中や体調のすぐれない女性が休憩したり仮眠したりできるような専用休憩室がある。
・授乳や搾乳ができる個室がある。
・乳幼児を連れた者が利用できるベビーシートやベビーチェアを備えたトイレや洗面所がある。
・建物内に治安・安全確保に配慮した照明が設備されている。
・その他

本件担当
ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
TEL/FAX: 086-251-7011
E-MAIL: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

女性のための設備・施設の整備状況調査　調査用紙（1/2pg）

（別紙）

女性のための施設・設備の整備状況報告

部局（センター）名：

担当者名：

連絡先：

１）～５）　までの調査項目に☑を入れ、設置場所等につきましてもご記入ください。

（ご記入欄が足りない時は、行を増やしてご記入ください。）

１）女性用の更衣室がある。

a.教員

□有　　設置場所　　記入例）　●●棟●●階　場所名（部屋番号等）

1

2

3

□無　　今後の設置予定　□予定あり　（予定年月：　　）

□予定なし

b.職員

□有　　設置場所　　記入例）　●●棟●●階　場所名（部屋番号等）

1

2

3

□無　　今後の設置予定　□予定あり　（予定年月：　　）

□予定なし

c.学生

□有　　設置場所　　記入例）　●●棟●●階　場所名（部屋番号等）

1

2

3

□無　　今後の設置予定　□予定あり　（予定年月：　　）

□予定なし

２）妊娠中や体調のすぐれない女性が休憩したり仮眠したりできるような専用休憩室がある。

□有　　設置場所　　記入例）　●●棟●●階　場所名（部屋番号等）

1

2

□無　　今後の設置予定　□予定あり　（予定年月：　　）

□予定なし

（別紙）

3）授乳や搾乳できる個室がある。

□有　　設置場所　　記入例）　●●棟●●階　場所名（部屋番号等）

1

2

□無　　今後の設置予定　□予定あり　（予定年月：　　）

□予定なし

4）乳幼児を連れた者が利用できるベビーシートやベビーチェアを備えたトイレや洗面所がある。

□有　　設置場所　　記入例）　●●棟●●階　場所名（部屋番号等）

1

2

□無　　今後の設置予定　□予定あり　（予定年月：　　）

□予定なし

5）その他、治安・安全等に配慮した設備・施設（照明等）がある。

□有　　設置場所　　記入例）　●●棟●●階　場所名（部屋番号等）

1

2

そのほか、利用者にとって有用な情報がございまいしたらお書きください。

ご協力いただきまして誠にありがとうございました。